

国際ロータリー第2560地区
ガバナーテーマ

「自らのロータリーストーリーを
作りましょう」

高田ロータリー
今年のスローガン

「善意を深め、
奉仕の力を昂めよう」



インスピレーションになるう

2018～2019年度

国際ロータリー会長 バリー・ラシン
2560地区ガバナー 川瀬 康裕
高田ロータリー会長 牧野 章一
幹事 佐藤 教彦

事務局：新潟県上越市西城町2-10-25 大島ビル201号
TEL (025) 526-3288 FAX (025) 526-3534
メールアドレス：takadarc@joetsu.ne.jp
例会場：デュオ・セレッソ TEL (025) 526-3111

クラブ広報・会報・雑誌委員
堀井 靖功 岩崎 幹男 宮川 大樹

第29回例会 ■ 3月1日(金)

No.29

会長挨拶 ● 牧野 章一



新潟県の経済

皆さまこんにちは。3月1日です。

今月は9日(土)ローターアクト 永井真伊地区代表年度 地区大会、11日(月)3クラブ合同例会、23日(土)大谷ガバナー年度 PETS があります。ケジメの月です。

ところで、2月は“平和と紛争予防／紛争解決月間”でありました。雑誌「ロータリーの友」では「難民を知る」と題して特集を組んでいます。冒頭に「国連難民高等弁務官事務所の発表によると、2017年末時点で、紛争などで避難している難民・避難民の数は、過去最高の6,850万人を上回った。しかし、日本にいる私たちにあまり身近とはいえない難民問題。ロータリーでどんなことができるかを考えてみましょう。」(抄)とあります。

私事で恐縮ですが、私の母は中国ハルピンからの引揚者です。満州鉄道関連の仕事をしていた祖父は引揚げの途中、当時の朝鮮で病魔に襲われ亡くなり、祖母は難民状態の中で4人の子供を守りながら舞鶴港へ帰還いたしました。

たしかに、今の私たちにとって難民問題は身近ではありません。しかし一世代前、筆舌に尽くしがたい逃避行があったのです。

“平和と紛争予防”ジョンが私たちのファミリーであるように、一人ひとりの善意の結びつきで世

界平和に関わる、それでこそロータリー、と自覚してまいりたいと思います。

本日の卓話は、財務省 関東財務局 新潟財務事務所 所長 齊藤 友博様です。演題は、「最近の新潟県の経済情勢」です。ご清聴ください。

出席報告

出席率 100%

メイクアップ

石倉 悟君 (2/24 全国危機管理委員長会議)
大谷光夫君・本山秀樹君・水上喜芳君・橋詰敏一君・遠藤 巖君・齋藤尚明君・佐藤憲二君・田中正人君・箕輪賢一君・中田 正君・飯塚宏佳君 (3/1 ガバナースタッフ会議)

委員会報告

国際奉仕委員会——ジョン君近況報告



米山奨学委員会——寄付のお願い

会員インフォメーション

渡邊 隆君——3/4 元気はつらつ元気塾講演会のご案内

齋藤尚明君——3/9 高田駐屯地ヘリコプター体験搭乗のご案内（先着3名）

幹事報告

配布物：週報No.26・27・28、ロータリーの友3月号
回覧物：新会員推薦カード、ガバナー月信3月号、
3/4 元気はつらつ元気塾講演会チラシ

卓話 最近の新潟県内の経済情勢



関東財務局新潟財務事務所 所長 齋藤 友博 様

新潟県内の経済状況は、「回復しつつある」という判断をしました。

向や人手不足に伴う影響を注視する必要があります。

今回の判断は、前回30年10月判断以降、今年1月に入ってから足下の状況を対象期間として、統計指標や企業へのヒアリング調査を行って最近の景気判断をしたものです。

【県内企業の生の声として】

- ・暖冬で穏やかな気候であたったため、季節商品が前年割れとなっているものの、年末を中心に来店客が増加し、売上高は前年比プラスを見込んでいる。
- ・国内・海外ともに自動車部品、半導体及び建機向け工作機械の需要が旺盛で足下は好調に推移しているほか、先行きも6か月先の受注残は前年を上回っている。
- ・店頭のパート職員に技能に基づく等級制度を導入し、時給に差をつけることで、スキルアップや継続勤務のインセンティブとしている。

今回の判断の要点としては、個人消費は、引き続き全体として「回復しつつある」ということ、生産活動は、「緩やかに回復しつつある」ほか、雇用情勢も、「改善しており、人手不足感が強まっている」ということで、判断しました。

なお、先行きについては、着実に景気回復が続くことが期待されますが、引き続き海外経済の動

私もひとこと 安全感度向上施設の紹介



ユアテック上越営業所 笹川 裕 君

高田ロータリークラブに入会させていただき、1年半が経ちました。諸先輩の方々から温かく接していただくおかげで、楽しく過ごすことができ大変感謝申し上げます。

いたします。

まずPRですが、弊社は東北電力のグループ企業で、東北6県、新潟県、関東圏などを営業範囲とする総合設備工事会社であり、電気、空調管、送電、発電機、配電、情報通信、土木建築の工事を行っています。

「安全啓発センター」は平成27年宮城県富谷町の弊社人財開発センター内に開設され、労働災害を疑似体験（聞く＋見る＋体感）することにより、安全感度を向上させることを目的としています。「感電等体験ゾーン」「墜落等体験ゾーン」「玉掛け等体験ゾーン」「複合体験ゾーン」の4ゾーンで、30項目の事故や危険の体験や再現が可能です。私も先週、この施設で「安全体感研修」（6時間、20名）を受講しましたが、設備や内容が充実しており、手前味噌ですが安全感度向上のために大変良い施設であると感じました。

屋外や建設現場での作業であり危険要因が多いため、災害防止に向けていろいろな安全管理対策を実施しております。その対策の一つで、近隣ではあまり見かけない「安全啓発センター」を紹介

宮城県は遠いのですが、他企業の方も受講できるそうなので興味ある方はお声掛け下さい。